

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23593170

研究課題名(和文)実践的風土を創造する臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構築

研究課題名(英文) Development of an educational program for clinical learning environment designers to create a practical climate

研究代表者

細田 泰子 (HOSODA, YASUKO)

大阪府立大学・看護学部・教授

研究者番号：00259194

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：看護学生や新卒看護職者を支援する教育指導者の育成プログラムについて、講習会・研修会の企画・運営担当者への面接および米国の臨床教育モデルに関する視察から検討した。教育指導者の臨床学習環境デザインに関する調査を実施し、組織・活動・道具のデザインに関する学習ニーズとその方法、教育責任者と教育指導者の認識の違いを明らかにした。これらの結果をもとに臨床学習環境デザイナー育成プログラムを構成し、試行した。実験群では、組織への参画、目標達成志向、支援的リーダーシップ、専門的実践、協働関係づくり、フレキシビリティを促進し、自己効力感が向上することから、実践的風土の創造に資する効果が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Interviews with clinical mentors' training sessions' planners and administrators and observations of the clinical education model in the U.S. have revealed key information on educational programs to clinical mentors providing support to newly graduated nurses and nursing students. Clinical mentors and educational supervisors completed a questionnaire on clinical mentors' clinical learning environment (CLE) designs. The results clarified learning needs and methods on organizational, activity, and tool designs; and differences in perceptions between clinical mentors and educational supervisors. Subsequently, an educational program for CLE designers was developed and implemented as a trial. The experimental group improved in terms of organizational commitment, goal achievement orientation, supportive leadership, professional practice, cooperative relationship building, and flexibility, and self-efficacy, suggesting that the program is effective in creating a practical climate.

研究分野：看護教育学

キーワード：臨床学習環境 デザイン 育成プログラム 実践的風土 コンピテンス 教育指導者 プログラム評価
国際情報交換(アメリカ合衆国)

1. 研究開始当初の背景

看護学教育におけるモデル・コア・カリキュラム導入の検討や新人看護職員研修の努力義務化など、看護学生(以下、学生)や新卒看護職者(以下、新卒者)の臨床コンピテンスを培うための教育体制の整備が進められている。学生や新卒者を支援する教育指導者の育成が重要であり、臨床学習環境のデザインに関する専門的な視野をもった活動全体のコーディネーターとなる人材の養成という課題がある。本研究では、臨床学習環境を学習者の問題解決能力の発達を促進する経験的な学習状況を構成するものと定義する。

近年の学習環境論では、学習者はその領域の文化のなかで社会的相互作用を通じて概念的理解を深めることが指摘されている。学習環境のデザインについて、加藤ら(2001)は、組織(ヒト)、活動(コト)、道具(モノ)の3つのレベルに整理している。Kolb(1984)は、学習環境を方向づける模範的風土、探索的風土、習熟的風土を示した。先行研究では、臨床学習に関わるステークホルダー(評価参加者)のメタ認知的活動は重要であり、その営為が臨床学習環境における風土全般を実践的なものにして示唆された。先行研究の知見を本研究においては、学生や新卒者といった学び手の活動を支援し、組織化する教育指導者の育成プログラムの概念や分析の視座として用いた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、学生や新卒者の臨床コンピテンスを培うために実践的風土を創造することのできる人材として、臨床学習環境デザイナーを育成するプログラムを構築することである。そのため、国内外の学生や新卒者を支援する教育指導者の育成の現状を把握し、教育指導者の臨床学習環境をデザインする能力の育成に関するニーズを明らかにする。これらの結果を活用し、臨床学習環境デザイナー育成プログラムを構成し、その試行と評価を行い、その適合性および教育の効果について検討する。

本研究の成果は、施設単位で個別に試みられている教育指導者の育成プログラムに有効な情報提供となり得ると考える。

3. 研究の方法

(1) 学生や新卒者を支援する教育指導者の育成プログラムに関する検討

現在行われている教育指導者の育成プログラムの取り組み、成果、課題、ニーズを把握するため、学生や新卒者の教育指導者を対象とする看護協会および病院の講習会・研修会の企画・運営担当者14名に半構造化面接調査を行った。逐語録を作成し、看護協会と病院に分けて質的記述的分析を行った。本研究は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(2) 米国の教育機関の視察と臨床学習環境に関する日米比較

米国の教育機関の視察は、先駆的な臨床教育モデルを提供する Oregon Consortium for Nursing Education の教育・学習活動の参加観察を行い、関係資料の収集、キーインタビューとの面談を行った。情報収集は、許可が得られた範囲とした。

臨床教育・学習にかかわるステークホルダーの臨床学習環境に関する状況的認知の日米比較を行うため、日本と米国の看護大学生各20名と大学教員各20名に半構造化面接調査を行った。逐語録を作成し、クラスタ分析とテーマ的コード化を実施した。本研究は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会と Oregon Health & Science University Institutional Review Board の承認を得て実施した。

(3) 教育指導者の臨床学習環境デザインの能力育成に関するニーズの検討

全国の病床数500床以上の医療機関より比例層化抽出法にて200施設を抽出し、研究協力の承諾が得られた89施設の教育責任者89名と教育指導者614名を対象に郵送法による自己記入式質問紙調査を実施した。調査内容は、教育指導者の学習環境デザインに関する学習の必要性と学習方法、受講研修内容と有用性、研修プログラムの課題、属性、学習の特性(教育指導者のみ)、看護師の職務キャリア尺度(教育指導者のみ)とした。定量データは統計学的処理を行い、定性データは質的記述的に分析した。本研究は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(4) 臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構成とその試行および評価

先行研究の結果をもとに、臨床学習環境デザイナー育成プログラムを構成した。プログラムの試行と評価では、実験群と対照群における事前・事後テストの準実験研究デザインを用いた。病床数500床以上の12病院に所属する教育指導者30名から参加の同意を得た。対象者を実験群と対照群に振り分け、プログラムの試行は3カ月の間隔を置き2回の構成とし、両群に行った講義に加えて、実験群にはワークショップを実施した。プログラム実施前、1回目プログラム終了時、2回目プログラム終了時、プログラム終了2ヶ月後に調査を行った。調査内容は、新卒者・学生への指導、看護コンピテンス尺度、Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory、一般性セルフ・エフィカシー尺度、日本語版 Sense of Coherence-29 スケール、プログラムの運用性の評価、属性とした。定量データは実験群と対照群の群間比較とそれぞれの群内における経時比較を行った。定性データは質的記述的に分析した。本研究は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 学生や新卒者を支援する教育指導者の育成プログラムに関する検討

教育指導者の育成プログラムの取り組み

看護協会では【中堅看護師がメインの実習指導者講習会】【教育と臨床側による運営組織】【研修プログラムの立案・調整】【研修機会・期間の調整】【指導者及びプログラムの評価】【長期の実習指導者講習会の実施】【グループワークの工夫】【役割遂行する上で学習すべき内容の研修】の8カテゴリーが抽出された。病院では【今後の指導者の実習指導者講習会への参加】【指導者・教育担当者対象の院外研修の受講】【プログラム・ニーズに合わせた外部講師、リソースナースの活用】【教育研修プログラムの企画・実施】【プログラム運営の工夫】【指導者になる前年度から開始する研修プログラム】【役割遂行する上で学習すべき内容の研修】【研修形態・内容の工夫】【看護職員全体に対する新人教育に関する知識の普及】【指導者および教育プログラムの評価】【指導者に対するフォロー体制】【新人看護師の指導体制の工夫】の12カテゴリーが抽出された。看護協会と病院に共通して、参加者の限定、プログラムの運営、企画、調整、指導者として学習すべき研修内容、プログラムの評価に取り組んでいることが明らかになった。

教育指導者の育成プログラムの成果

看護協会では【教育力の向上】【自己理解や他者理解の深まり】【実習指導体制の整備】の3カテゴリーが抽出された。病院では【教育力の向上】【職場風土の改善】【他者理解の深まり】【新人看護師に対する支援体制づくり】の4カテゴリーが抽出された。看護協会と病院に共通して、教育力の向上、自己や他者理解の深まりが挙げられた。

教育指導者の育成プログラムの課題

看護協会では【施設側が抱える問題】【対象者の多様性】【プログラムの構成】【プログラムの評価】の4カテゴリーが抽出された。病院では【組織の教育体制】【指導者個人としての問題】【教育指導者同士の連携】【指導者の教育力の育成】【指導者への支援体制】【プログラムの構成】【教育担当者の意識改革】【病棟の風土の変革】【多様な教育背景の新人看護師への対応】【プログラムの評価】の10カテゴリーが抽出された。看護協会と病院に共通して、プログラムの構成とその評価を課題としていることが示唆された。

教育指導者の育成プログラムのニーズ

看護協会では【現場の教育プログラムの把握】【研修後の受講者に対するフォローアップ】【実態に応じた研修内容の取り入れ】【現場の視点からみた補充すべき要素】【研修のストラテジーの見直し】【勤務を継続できる研修プログラムの検討】【研修の受講に対する職場のサポート】【研修プログラムの改善への取り組み】の8カテゴリーが抽出された。病院では【成長を支援する職場風土の形成】

【現場教育を担当する指導者へのサポート】【教育に関する実践的知識の習得】【指導者の成長を期待した研修企画の委任】【指導者の教育プログラムの整備】【教育体制の充実への取り組み】【要望に応じた研修時期や内容の選定】【人材育成にかかわる人たちの価値観の共有】【指導者の教育に関する外部機関との連携】の9カテゴリーが抽出された。看護協会と病院に共通して、教育指導者へのサポートやプログラムの検討が挙げられた。

(2) 米国の教育機関の視察と臨床学習環境に関する日米比較

米国の看護学教育デザイン

Oregon Health & Science University におけるフィールドスタディを行い、看護学教育デザインを探究した。シミュレーションを用いて実践に近い状況を設定し、臨床判断が行えるように、シミュレーションのシナリオの開発、プログラムの企画、指導、評価が行われていた。実習は、学生8~9名の実習グループを1名の臨床教員が担当し、Clinical Judgment や Critical Thinking の能力育成、患者中心のケア、エビデンスに基づく実践、他のヘルスケア提供者の役割を学ぶ学際的な機会を提供していた。新しい教育方法の導入だけでなく、理論と実践のリンケージを含め、インストラクショナルデザインが重視されていることが明らかになった。

臨床学習環境に関する日米比較

クラスタ分析の結果、米国の学生および教員のクラスタは、日本の学生および教員と比較し、他のクラスタのコンセプトとのリンクが少なかった。日米の教員両方に出現したクラスタの「学生」ではコンセプト間のリンケージが類似していたが、「部屋」では類似していなかった。日米の学生では、同じ名前あるいは類似のクラスタが出現したが、クラスタのコンセプトやそのリンクは米国と日本の学生では異なる傾向を示していた。日米の学生および教員のそれぞれのクラスタのコンセプト間のリンケージを把握できたが、相互の類似性と相違性はあまり明確にならなかった。

望ましい臨床学習環境のテーマ的コード化の結果、日本の学生から【快適な臨床コンディション】【教員・スタッフからの教育的支援】【学びを促進する連携システム】【オーセンティック・ラーニングの機会】【職業的アイデンティティを育む土壌】【ピア・ラーニングの活性化】の6テーマ、米国の学生から【堅実な臨床コンディション】【教員・スタッフからの教育的支援】【学びを助成する大学と臨床パートナーシップ】【オーセンティック・ラーニングの経験】【専門的能力の開発アプローチ】【協調的な学習コミュニティ】【効果的指針の学習への反映】の7テーマが抽出された。日本の教員から【妥当な臨床コンディション】【教員・看護管理者・スタッフからの教育的支援】【学習への共通理解にもとづく連携】【オーセンティック・ラーニン

グの実践】【連携的な学習活動】【協調的な学習コミュニティ】の6テーマ、米国の教員から【適格な臨床コンディション】【教員・スタッフからの教育的支援】【学びを促進する組織的アプローチ】【オーセンティック・ラーニングの発展】【専門的な学習活動】【協調的な学習コミュニティ】の6テーマが抽出された。日米の学生と教員に共通して、臨床コンディションが学習に影響を及ぼし、教育的支援が学びの足場づくりとなり、相互的な結びつきが学習を支え、実際の文脈のなかで学習や職業的発達が生起することが示唆された。

(3) 教育指導者の臨床学習環境デザイン的能力育成に関するニーズの検討

教育指導者の学習における教育責任者と教育指導者の認識の違い

教育責任者 74 名、教育指導者 405 名から有効回答を得た。分析の結果、教育指導者の学習の必要性について、学習環境における「組織のデザイン」では、看護倫理の指針、OJT のあり方、人間関係の形成、コミュニケーションの方法、「活動のデザイン」では、学習者の特徴、学習者への動機づけ、学習ニーズの把握において、教育責任者は教育指導者より、教育指導者における学習の必要性を有意に高く認識していた。「道具のデザイン」では、有意差は認めなかった。教育指導者の学習方法について、「組織のデザイン」では、組織の管理、OJT の在り方、指導者間の連携、ネットワーク作りにおいて、教育責任者に比べ教育指導者の方が〔専門家から学ぶ〕と回答した割合が〔仲間同士で学ぶ・自分で学ぶ〕より有意に多かった。「活動のデザイン」では、看護過程の展開、論理的思考において、教育責任者に比べ教育指導者の方が〔専門家から学ぶ〕と回答した割合が有意に多かった。「道具のデザイン」では、チェックリストの作成、情報機器の操作、事例報告の書き方において、教育責任者に比べて教育指導者の方が〔専門家から学ぶ〕と回答した割合が有意に多かった。OJT の在り方、指導者間の連携、ネットワーク作り、看護過程の展開、チェックリストの作成、情報機器の操作、事例報告の書き方において、教育責任者の 7 割以上が教育指導者の学習方法として〔仲間同士で学ぶ・自分で学ぶ〕と回答していた。教育責任者は、教育指導者が仲間同士や自分で学ぶことを期待し、教育指導者は専門家からの学びを必要としていることから、学習方法への認識が異なることが示唆された。

研修の受講について、教育指導者の 50% 以上が受講していた内容は、リーダーシップ、教育担当者・実施指導者の役割、対象理解、コミュニケーション、メンタルヘルス、看護教育制度、教育計画の立案であった。研修の有用性について、教育指導者では、専任看護教員養成講習会、保健師助産師看護師実習指導者講習会、教育担当者・実地指導者の役割、教育責任者では、対象理解、技術教育の方法、

教育担当者・実地指導者の役割において、相対的に有用性が高かった。

教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズとその関連要因

教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズの因子分析の結果、道具デザインに関する学習ニーズ 組織デザインに関する学習ニーズ 活動デザインに関する学習ニーズ が抽出された。各因子の内的整合性が認められた。これらの因子と《学習の特性》との間には、有意な相関を認めた。なかでも 組織デザインに関する学習ニーズ と《学習の特性》との間に低い相関が見られた。さらに《学習の特性》と《職務キャリア》との間にも有意な相関がみられた。なかでも《学習の特性》の メタ認知的活動 と《職務キャリア》の 質の高い看護の実践と追究 との間に中程度の相関を認めた。

教育指導者の研修プログラムの課題

教育指導者の研修等のプログラムの主要な課題について、教育責任者の自由記述の分析により【評価】【制約】【指導者個人】【新人看護師】【教育体制】【研内容・企画】【研修システム】に関する課題が抽出された。教育指導者の研修等のプログラムには多様な課題があることが示唆された。また、課題によっては取り組みが困難であることが明らかになった。

(4) 臨床学習環境デザイナー育成プログラムの構成とその試行および評価

プログラムの構成

先行研究の結果よりプログラムの内容を検討し、Creative thinking model (Resnic, 2007) と予期機能(Bandura, 1977)を基盤にプログラムの構成を行った。プログラムは3カ月の間隔を置き2回設定し、実験群と対照群の両方に行った講義に加えて、実験群にはワークショップを設定した。ワークショップでは、所属する施設が異なる教育指導者同士やファシリテーターとの協同作業や相互作用を通じて、学びを創発することをねらいとした。

プログラムの試行および評価

教育指導者 24 名(実験群 12 名、対照群 12 名)を分析対象とした。ベースラインにおいて、対象者の特性および測定した変数すべての実験群と対照群の群間比較では有意差がみられなかったため、両群はほぼ均質な集団と推察できる。新卒者・学生への指導と臨床学習環境では、群間比較および経時比較で有意差はみられなかった。本研究のプログラムは、指導行動を変化させるには十分な頻度や時間ではなかったと推察され、またプログラムの学びが直ちに臨床学習環境に反映されなかったことが考えられる。看護コンピテンシーは、群間比較では有意差はなかった。経時比較では、実験群の 組織への参画、実験群と対照群の 目標達成志向、実験群の 支援的リーダーシップ、実験群と対照群の 専門的实践、実験群の 協働関係づく

り、実験群と対照群のフレキシビリティで有意差がみられた。これらの看護コンピテンシーを促進する効果があることが示唆された。しかし、実験群と対照群の有意差がないことから、両群に行った講義により動機づけられたことも考えられる。自己効力感、群間比較および経時比較で有意差はみられなかったが、2回目プログラム終了時とベースラインの得点差では、有意に実験群が高いことが明らかになった。ワークショップにより、自己効力感が向上する可能性が示唆された。首尾一貫感覚は、群間比較で有意差はなかったが、各群のベースラインとプログラム終了2ヶ月後の経時比較では対照群において有意に低下していた。対照群にはワークショップがないことが反映された可能性がある。プログラムの満足度には否定的な評価がなく、受講時間は「ちょうど良い」という回答がもっとも多い割合を占めていた。プログラムの内容に関する評価では、実験群と対照群の間で有意差が認められたのは、「参加者間で情報共有・情報交換ができた」「自身の指導方法を振り返る機会となった」であった。今後の教育活動への活用については、1回目プログラム終了時では、両群にみられた【自身のコーチングの省察】【新しい知識の取り込み】【活用に向けた現場への伝授】【看護観・教育観の明確化】に加え、実験群の【他施設の取り組みからの学び】【異なる視点や環境の認知】がワークショップから得られたものと認められた。2回目プログラム終了時では、両群にみられた【評価方法の取り込み】【現場の教育評価への導入】【活用に向けた現場への伝授】【評価基準の明確化】に加え、実験群の【他施設の取り組みからの学び】【ルーブリックの作成】がワークショップの成果と考えられた。プログラム終了2ヶ月後では、両群にみられた【教育方法・評価の学びの深化】【現場の教育の見直し】【自身の指導方法の省察】に加え、実験群の【ルーブリックの作成】【ワークショップの発展】に取り組んでいることが伺われた。今回のプログラムの試行では、実験群と対照群の相違が明確ではなかった。プログラムの成果をより現場で活用可能なものにするために、プログラムの改善と今後の展開を検討していく必要がある。

<引用文献>

- 加藤浩, 鈴木栄幸 (2001) 協同学習環境のための社会的デザイン. 加藤浩, 有元典文 編, 状況論的アプローチ2 認知的道具のデザイン, 176-209, 金子書房, 東京.
- Kolb, D. A. (1984) *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*. Prentice Hall, New Jersey.
- Resnick, M. (2007) Sowing the seeds for a more creative society. *Learning and Leading with Technology* (International Society for Technology in Education), December/January

2007-2008, 18-22.

Bandura, A. (1977) Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, 84(2), 191-215.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

土肥美子, 細田泰子, 中橋苗代, 中岡亜希子, 池内香織, 臨床における教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズとその学習方法の検討, 大阪府立大学看護学部紀要, 査読有, 21 巻, 2015, 1-11, <http://repository.osakafu-u.ac.jp/dspace/handle/10466/14366>

池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 中橋苗代, 新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ, 大阪府立大学看護学部紀要, 査読有, 20 巻, 2014, 1-8, <http://repository.osakafu-u.ac.jp/dspace/handle/10466/13742>

〔学会発表〕(計 18件)

Yoshiko Doi, Yasuko Hosoda, Mitsuyo Nakahashi, Akiko Nakaoka, Kaori Ikeuchi, Learning methods related to the design of learning environments for clinical mentors, as viewed from the perspective of educational supervisors in Japan, Sigma Theta Tau International 43rd Biennial Convention, 2015 年 11 月 7 日~8 日, Las Vegas (USA)

中橋苗代, 細田泰子, 土肥美子, 中岡亜希子, 池内香織, 新卒者や学生を支援する教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズとその関連要因の検討, 第 41 回日本看護研究学会学術集会, 2015 年 8 月 22 日~23 日, 広島国際会議場(広島県・広島市)

土肥美子, 細田泰子, 中橋苗代, 中岡亜希子, 池内香織, 臨床の学習環境デザインに関する教育指導者の学習方法の検討 教育責任者と教育指導者の認識の差異に着目して, 第 46 回日本看護学会 看護教育 学術集会, 2015 年 8 月 6 日~7 日, 奈良県文化会館(奈良県・奈良市)

Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Paula Gubrud-Howe, Perspectives held by faculty and students on competences cultivated in clinical learning environments for the United States and Japanese undergraduate nursing students: A text mining analysis, International Council of Nursing 2015 Conference, 2015 年 6 月 19 日~23 日, Soul (Korea)

中岡亜希子, 細田泰子, 中橋苗代, 土肥美子, 池内香織, 新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の学習の特性と職務キャリアの関連性, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 2014 年 11 月 29 日, 名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市)

土肥美子、細田泰子、中橋苗代、中岡亜希子、池内香織、新卒者や学生を支援する教育指導者が求める学習方法 学習ニーズ別の検討、第45回日本看護学会看護教育 学術集会、2014年9月17日、新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ(新潟県・新潟市)

細田泰子、中岡亜希子、中橋苗代、池内香織、土肥美子、新卒看護職者や学生を支援する教育指導者における学習の必要性：教育責任者と教育指導者の認識の違い、日本看護学教育学会第24回学術集会、2014年8月27日、幕張メッセ・国際会議場(千葉県・千葉市)

土肥美子、細田泰子、中橋苗代、中岡亜希子、池内香織、新卒看護職者や学生を支援する教育指導者における学習ニーズの特徴、第40回日本看護研究学会学術集会、2014年8月23日、奈良県文化会館(奈良県・奈良市)

池内香織、細田泰子、中岡亜希子、中橋苗代、土肥美子、新卒看護職者や学生を支援する教育指導者の研修内容とその有用性：教育責任者と教育指導者の認識の違い、第40回日本看護研究学会学術集会、2014年8月23日、奈良県文化会館(奈良県・奈良市)

Mayumi Negishi, Yasuko Hosoda, Paula Gubrud-Howe、Baccalaureate nursing students' competences cultivated in clinical learning environments in Japan and the United States、5th International Nurse Education Conference、2014年6月23日、Noordwijkerhout (The Netherlands)

細田泰子、中岡亜希子、中橋苗代、池内香織、新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関するニーズ、第24回日本医学看護学教育学会学術集会、2014年3月9日、鳥根県立石見高等看護学院(鳥根県・益田市)

細田泰子、根岸まゆみ、看護学実習の臨床学習環境における日米の看護大学生の状況的認知、第33回日本看護科学学会学術集会、2013年12月7日、大阪国際会議場(大阪府・大阪市)

Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Paula Gubrud-Howe、Perspectives held by faculty and students on clinical learning environments in United States and Japanese baccalaureate nursing programs、Sigma Theta Tau International 42nd Biennial Convention、2013年11月18日~19日、Indianapolis (USA)

中岡亜希子、細田泰子、中橋苗代、池内香織、新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する課題、日本看護学教育学会第23回学術集会、2013年8月7日、仙台国際センター(宮城県・仙台市)

中橋苗代、細田泰子、中岡亜希子、池内

香織、新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する成果、日本看護学教育学会第23回学術集会、2013年8月7日、仙台国際センター(宮城県・仙台市)

池内香織、細田泰子、中岡亜希子、中橋苗代、新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組み、日本看護学教育学会第23回学術集会、2013年8月7日、仙台国際センター(宮城県・仙台市)

細田泰子、根岸まゆみ、日米の看護大学生における臨床学習環境に関する比較：メタ認知、看護実践力に及ぼす影響に焦点をあてて、第32回日本看護科学学会学術集会、2012年11月30日、東京国際フォーラム(東京都・千代田区)

Mayumi Negishi, Yasuko Hosoda, Paula Gubrud-Howe、Effects of clinical learning environment on US and Japanese nursing students、2012 Western Institute of Nursing、2012年4月21日、Portland (USA)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.nursing.osakafu-u.ac.jp/~hosoday/gaiyou.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細田 泰子 (HOSODA, Yasuko)

大阪府立大学・看護学部・教授

研究者番号：00259194

(2) 研究分担者

中岡 亜希子 (NAKAOKA, Akiko)

大阪府立大学・看護学部・准教授

研究者番号：60353041

中橋 苗代 (NAKAHASHI, Mitsuyo)

京都橘大学・看護学部・講師

研究者番号：60454477

池内 香織 (IKEUCHI, Kaori)

大阪府立大学・看護学部・助教

研究者番号：10460966

土肥 美子 (DOI, Yoshiko)

京都光華女子大学・健康科学部・助教

研究者番号：10632747

星 和美 (HOSHI, Kazumi)

大阪府立大学・看護学部・教授

研究者番号：40290358

(3) 研究協力者

根岸 まゆみ (NEGISHI, Mayumi)

鈴木 亜衣美 (SUZUKI, Aimi)

富田 亮三 (TOMITA, Ryozo)